

2020年3月期第1四半期決算 プレゼンテーション資料

2019年7月
大阪ガス株式会社

1

大阪ガスの藤田でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の2020年3月期第1四半期決算 電話会議説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それでは、ただ今より、2020年3月期第1四半期決算について、弊社ホームページで開示しております、プレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

4ページをご覧ください。

目次

I. 20.3期第1四半期決算と20.3期見通しの概要

□ 20.3期第1四半期決算及び 20.3期見通しのポイント	- 4	□ 20.3期第1四半期販売実績	- 16
□ 20.3期第1四半期の対前年比較	- 5	□ 20.3期販売見通し	- 17
□ 20.3期見通しの対前年比較	- 6	□ 家庭用ガス販売	- 18
□ 20.3期第1四半期の成長投資実績	- 7	□ 業務用等ガス販売	- 19
□ 20.3期の主なトピックス	- 8		

II. 20.3期第1四半期決算と20.3期見通し

□ 20.3期第1四半期実績	- 10-12
□ 20.3期見通し	- 13-15

III. 参考資料

□ 20.3期第1四半期の差異(対前年)	- 21-22
□ 20.3期見通し差異(対前年)	- 23-24
□ 年度見通しに対するリスク要因	- 25

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <http://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

I. 20.3期第1四半期決算と20.3期見通しの概要

20.3期第1四半期決算及び20.3期見通しのポイント

2020.3期第1四半期決算 対前年比較

売上高	ガス事業における販売単価上昇等により、 前年比12.8%(379億円)増収の3,350億円
経常利益	ガス事業におけるスライド影響、ガス事業費用の減少等により、 前年比77.4%(180億円)増益の414億円 スライド差益は52億円(前年は66億円のスライド差損)
親会社株主に帰属する当期純利益	前年比83.1%(129億円)増益の286億円

2020.3期見通し 前年比較

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

売上高	電力販売量増等により、 前年比3.9%(541億円)増収の1兆4,260億円
経常利益	ガス事業におけるスライド影響等により、 前年比28.4%(178億円)増益の810億円 スライド差益は69億円(前年は132億円のスライド差損)
親会社株主に帰属する当期純利益	前年度ののれんの一括償却*、災害損失**の特別損失計上の反動等により、 前年比63.7%(213億円)増益の550億円

* のれんの一括償却 89億円(新規案件の取得に伴うのれんの一括償却)
**災害損失 21億円

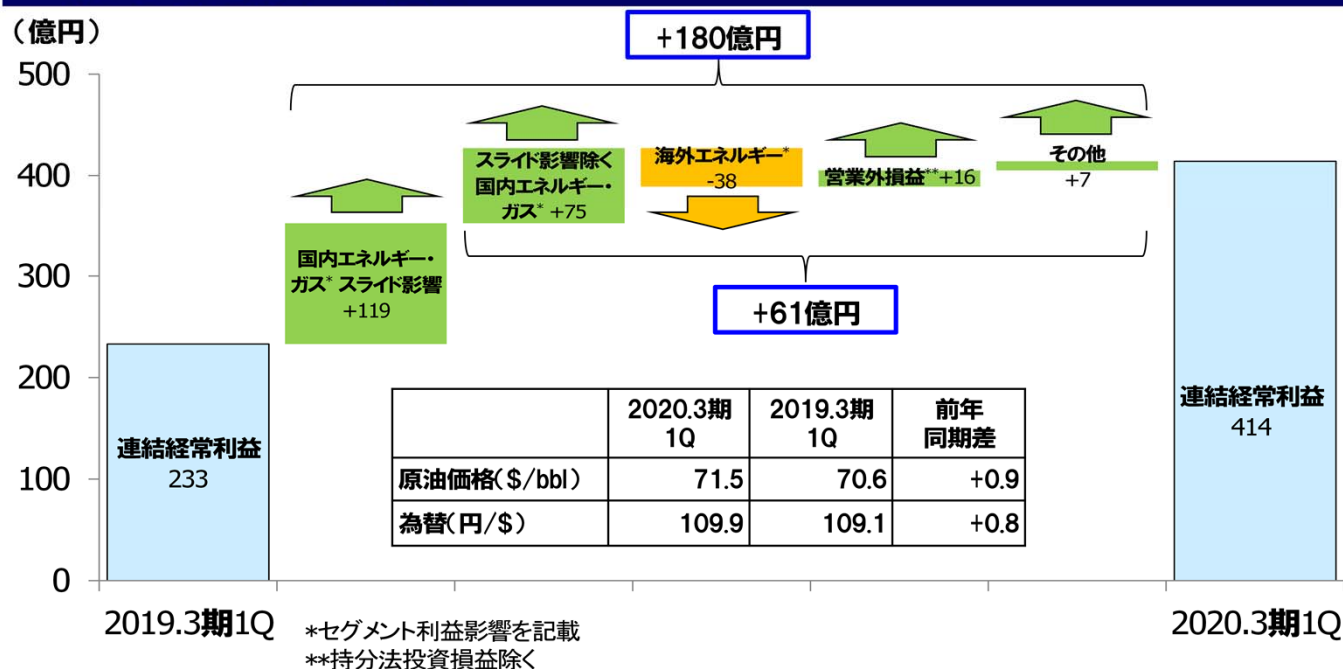
4ページにはポイントを簡単にまとめております。

当期の連結経常利益は、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響やガス事業費用の減少等により、前年から180億円増益の414億円となりました。

2020年3月期の通期見通しは、2019年4月発表時から変更しておりません。

20.3期第1四半期決算の対前年比較

- 2020年3月期第1四半期の連結経常利益は、ガス事業におけるスライド影響、ガス事業費用の減少等により、対前年+180億円の414億円
- スライド影響を除くと、ガス事業費用の減少が海外エネルギー事業の減益を上回ったこと等により、対前年+61億円



5ページに、2020年3月期第1四半期の連結経常利益について、前年との比較をまとめています。

当期の連結経常利益の前年との比較については先ほど申し上げた通りですが、スライド影響を除きましても、ガス事業費用の減少が、海外エネルギー事業の減益を上回ったこと等により、前年から61億円増益となりました。

国内エネルギー・ガス事業では、スライド影響による増益が119億円となり、スライド影響を除くと、ガス事業費用の減少が、競合影響を上回ったこと等により、前年から75億円の増益となりました。

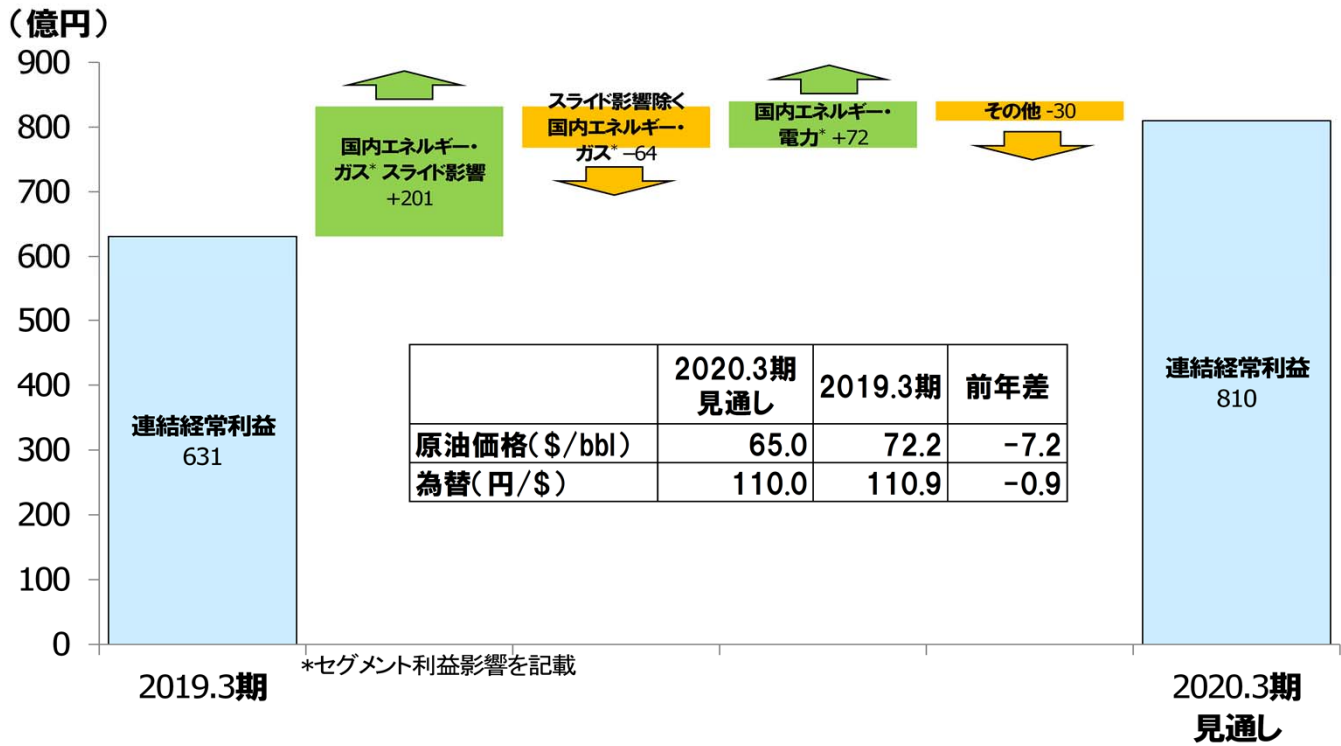
海外エネルギー事業では、フリーポートプロジェクト関連影響による減益や、ゴーゴンプロジェクトのLNG販売量減少等により、前年から38億円の減益となりました。

なお、2019年4月24日に公表しました見通しに対しては、概ね想定通りに進捗しています。

20.3期見通しの対前年比較

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

- 2020年3月期の連結経常利益見通しは、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響による増益等により、対前年+178億円の810億円

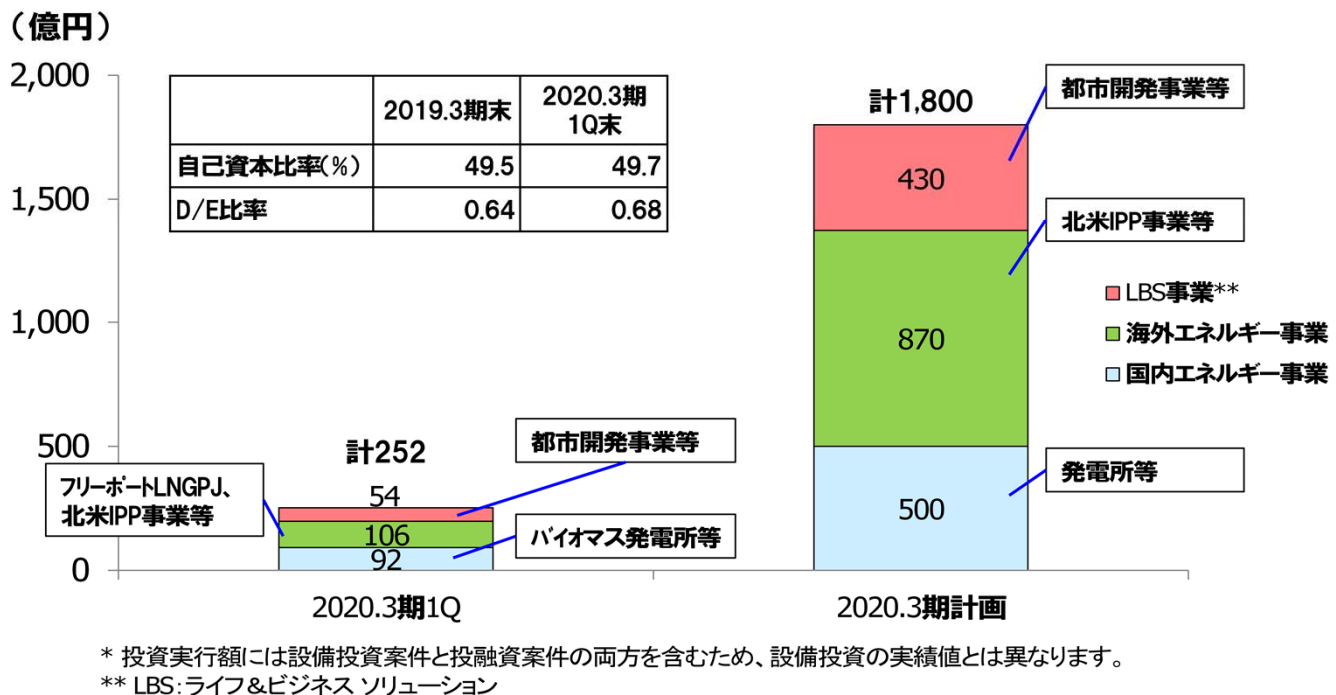


6ページに2020年3月期見通しの前年との比較について、まとめています。

2019年4月24日発表時から変更してありません。

20.3期第1四半期の成長投資実績

- 2020年3月期第1四半期は、海外エネルギー事業等に252億円の成長投資を実行
- 2020年3月期通期の投資計画に対し、約14%の進捗
- 財務健全性指標は、自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持



7

7ページは成長投資になります。

2020年3月期第1四半期は、北米中下流事業、バイオマス発電事業等、主に既存案件に対し252億円の成長投資を実行し、通期計画1,800億円に対する進捗は約14%となりました。

既存案件への投資に加え、ベトナムにおける天然ガス供給事業会社、タイにおける太陽光発電事業会社の設立、東南アジアの天然ガスインフラ会社への出資、北米上流事業会社の100%取得を意思決定しており、今後、投資が進捗すると考えています。

北米上流事業会社の100%取得について補足します。

取得対象であるサビン社は、米国テキサス州東部に約1,000km²、琵琶湖の約1.5倍の規模の鉱区を保有し、現在約1,200本の井戸から、LNG換算で約170万トン/年相当のガスを生産しています。

当社は、2018年7月に、その一部のガス田権益を取得し、参画時の想定を超える生産量及び利益貢献があることを確認すると共に、同社の優れたマネジメントによる高いオペレーター能力も確認してきました。

本買収により、シェールガス事業の利益貢献が高い確度で見込めると共に、米国のエネルギー上流事業においてプロジェクトを主体的に推進するオペレーターシップを獲得することで、より戦略的な事業運営の実現を目指すことが可能となります。

成長投資を進める一方で、財務健全性指標である自己資本比率は、2019年6月末時点で49.7%、D/E比率は0.68となり、中期経営計画で掲げた自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。

20.3期の主なトピックス

4月	<ul style="list-style-type: none"> 西沖の山発電所(仮称)新設計画からの撤退について
5月	<ul style="list-style-type: none"> 「第36回無担保社債200億円」「第37回無担保社債200億円」(国内普通社債)発行 太陽光発電の余剰電力買取サービスの開始について 業界初の新技術「エリアセンサー」搭載のビルトインコンロ「AVANCE(アバンセ)」の発売について
6月	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムにおける天然ガス供給事業会社の設立について 防災科学技術研究所、大阪ガスの包括的連携に関する協定の締結について
7月	<ul style="list-style-type: none"> 米国シェールガス開発会社Sabine Oil & Gas Corporationの全株式取得について 海外で天然ガスインフラ会社を開発するAGP International Holdings Pte. Ltd.への出資および戦略的協業契約の締結について 新機能を搭載したコンロで手間を省いておいしく調理！料理の幅も広がるビルトインコンロ「クラスS」の新製品を発売 第90回都市対抗野球大会のカーボン・オフセットの取り組みへの協力について タイにおける太陽光発電事業会社の設立について

※プレスリリース実施月を記載

8ページに2020年3月期 の主なトピックスをまとめています。

Ⅱ. 20.3期第1四半期決算と20.3期見通し

20.3期第1四半期実績 I

連結:億円 (()内は連単倍率)	A. 20.3期 1Q	B. 19.3期 1Q	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.24) 3,350	(1.23) 2,971	+379	+12.8%	ガス事業における販売単価 上昇等
営業利益	(1.28) 366	(2.16) 207	+159	+76.8%	ガス事業におけるスライド影響、 ガス事業費用の減少等
経常利益	(1.10) 414	(1.32) 233	+180	+77.4%	
四半期純利益*	(0.98) 286	(1.15) 156	+129	+83.1%	
EBITDA**	604	433	+171	+39.4%	
* 親会社株主に帰属する四半期純利益					
** EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費+持分法投資損益					
スライド差損益	52	-66	+119	-	
スライド差損益控除後 経常利益	361	300	+61	+20.4%	
原油価格***	\$/bbl	71.5	70.6	+0.9	
為替レート	円/\$	109.9	109.1	+0.8	

*** 20.3期1Q原油価格実績は、6月速報値までの平均

10ページに実績数値をまとめています。

20.3期第1四半期実績Ⅱ

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.20.3期 1Q	B.19.3期 1Q	A-B	A.20.3期 1Q	B.19.3期 1Q	A-B	
国内エネルギー・ ガス	2,514	2,204	+309	309	113	+195	利益:スライド影響、ガス事業費用の減少等
国内エネルギー・ 電力	420	371	+48	11	21	-10	利益:販売単価低下、営業経費増等
海外エネルギー	111	113	-2	9	48	-38	利益:フリーポートPJ関連、ゴーゴンPJLNG販売量減等
ライフ&ビジネス ソリューション	490	467	+23	35	31	+4	利益:概ね前年並み
消去又は全社	-186	-186	-0	18	4	+13	
連結	3,350	2,971	+379	385	220	+164	

*セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

内、ヘッジ会計適用外のDV時価評価影響
20.3期1Q -4, 19.3期1Q 13, 前年同期差 -18

11ページはセグメント別になります。

20.3期第1四半期実績Ⅲ

連結:億円	A. 20.3期 1Q末	19.3期 1Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	20,423	18,598	20,297	+126	
自己資本	10,142	9,939	10,043	+99	
有利子負債	6,891	5,383	6,474	+417	社債発行等
在籍人員(人)	20,689	20,354	20,224	+465	オーグス総研G、Jacobiの増等
自己資本比率	49.7%	53.4%	49.5%	+0.2%	
D/E比率	0.68	0.54	0.64	+0.03	

連結:億円	A. 20.3期 1Q	B. 19.3期 1Q	A-B	備考
設備投資	257	178	+78	
減価償却費	219	213	+6	
フリーキャッシュフロー*	459	-335	+794	運転資本の減等

* FCF=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出

12ページでは、資産、負債等について整理しています。

フリーキャッシュフローは、運転資本の減少等により、前年から794億円増加の、459億円となりました。

20.3期見通し I

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

連結：億円（）内は連単倍率	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.25) 14,260	(1.24) 13,718	+541	+3.9%	電力販売量増等
営業利益	(1.72) 910	(2.43) 679	+230	+33.9%	ガス事業におけるスライド影響等
経常利益	(1.43) 810	(1.56) 631	+178	+28.4%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.28) 550	(1.34) 336	+213	+63.7%	前年度ののれんの一括償却、 災害損失の反動等
EBITDA*	1,802	1,599	+202	+12.7%	
* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 (新規案件取得に伴うのれんの一括償却除く) + 持分法投資損益					
スライド差損益	69	-132	+201	-	
スライド差損益控除後 経常利益	740	763	-22	-3.0%	
原油価格**	\$/bbl	65.0	72.2	-7.2	
為替レート	円/\$	110.0	110.9	-0.9	
** 19.3期の原油価格実績は、3月速報値までの平均					

13ページは、通期見通しの前年度との比較をまとめています。

通期見通しは、次ページ以降を含め、2019年4月発表時から変更ありません。

20.3期見通しⅡ

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

単位:億円	売上高			セグメント利益*			備考
	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス	10,155	10,126	+28	495	358	+136	利益:スライド影響等
国内エネルギー・ 電力	2,180	1,843	+336	160	87	+72	利益:電力販売量増等
海外エネルギー	555	404	+150	65	59	+5	前年並
ライフ&ビジネス ソリューション	2,160	2,109	+50	200	177	+22	利益:材料事業の増益等
消去又は全社	-790	-764	-25	15	8	+6	
連結	14,260	13,718	+541	935	690	+244	

* セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

14ページは、セグメント別通期見通しの前年度との比較になります。

20.3期見通しⅢ

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

連結：億円	A. 20.3期末 見通し	B. 19.3期末	A-B	備考
総資産	22,346	20,297	+2,048	成長投資の増等
自己資本	10,386	10,043	+342	
有利子負債	7,920	6,474	+1,445	新規借入等
在籍人員	20,788	20,224	+564	オージス総研G、Jacobi等
自己資本比率	46.5%	49.5%	-3.0%	
D/E比率	0.76	0.64	+0.12	有利子負債の増加等
	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	
設備投資	1,450	1,072	+377	成長投資の増等
減価償却費	866	997	-130	
フリーキャッシュフロー*	826	209	+617	運転資本の減少等
ROA	2.6%	1.7%	0.8%	
ROE	5.4%	3.4%	2.0%	
EPS(円/株)	132.3	80.8	+51.5	
BPS(円/株)	2,497.7	2,415.4	+82.4	

* FCF＝営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益＋減価償却費等非現金支出)－品質向上投資による支出

15ページは、資産、負債等について記載しています。

20.3期第1四半期販売実績

*ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数
 **用途別の差異要因はP.18・19に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		A. 20.3期1Q	B. 19.3期1Q	A-B	(A-B)/B (%)
個	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,430	5,847	-417	-7.1%
	新設工事件数(千件)	23	23	+0	+1.0%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	29.1	27.2	+1.9	+7.1%
別	家庭用**	459	462	-4	-0.8%
	業務用等**	1,340	1,415	-74	-5.2%
ガス販売量合計(百万m ³)		1,799	1,877	-78	-4.1%
連結ガス販売量		1,812	1,888	-76	-4.0%

■ 電力販売(連結)

		A. 20.3期1Q	B. 19.3期1Q	A-B	(A-B)/B (%)
小売	卸等	869	601	+268	+44.6%
	卸等	1,914	2,013	-98	-4.9%
国内電力販売量(百万kWh)		2,783	2,614	+170	+6.5%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		1,077	702	+374	+53.3%

■ お客さまアカウント(連結)

		A. 20.3期1Q末	B. 19.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)		889	875	+15	+1.7%

16

16ページは、販売実績をまとめています。

2020年3月期第1四半期のガス販売量は、主に業務用等の減少により、前年から4.1%減少の17億9千9百万m³となりました。

家庭用は、他社へのスイッチング影響等がありましたが、気水温が低く推移し、給湯・暖房需要が増加したこと等により、概ね前年並の4億5千9百万m³となりました。

業務用等は、他社へのスイッチング影響、お客さま先の設備稼働減等により、前年から5.2%減少の13億4千万m³となりました。

電力販売量は、小売販売量の増加が卸等の減少を上回ったことにより、前年から6.5%増加の27億8千3百万kWhとなりました。

低圧電気供給件数は、2019年6月末時点で107万7千件となり、7月27日時点では、111万件超となりました。

お客さまアカウント数は、ガス事業での離脱影響はありましたが、びわこブルーエナジーの事業開始、ガス事業での新設、電力小売契約の獲得等により、2019年3月末から15万件増の889万件となりました。

次ページに、2020年3月期通期の販売見通しを記載していますが、2019年4月に公表した内容から変更しておりません。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

20.3期販売見通し

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

*用途別の差異要因はP.18・19に記載

■ ガス販売

45MJ/m ³		A. 20.3期見通し	B. 19.3期実績	A-B	(A-B)/B (%)
個	家庭用*	1,824	1,892	-67	-3.6%
別	業務用等*	5,736	6,010	-274	-4.6%
ガス販売量合計(百万m ³)		7,560	7,901	-341	-4.3%
連結ガス販売量		7,599	7,935	-336	-4.2%

■ 電力販売(連結)

	A. 20.3期見通し	B. 19.3期実績	A-B	(A-B)/B (%)
国内電力販売量(百万kWh)	12,148	11,653	+496	+4.3%

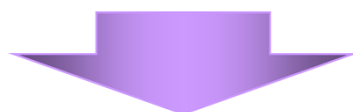
■ お客さまアカウント(連結)

	A. 20.3末 見通し	B. 19.3末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)	900	875	+26	+2.9%

家庭用ガス販売 20.3期第1四半期実績、20.3期見通し

20.3期1Q実績

	対前期	備考
調定件数	-5.7%	他社へのスイッチング等
気水温影響	+6.6%	平均気温19.8度(対前年同期 -0.4度)
その他	-1.7%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	-0.8%	



20.3期見通し

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

- 平年気温を前提とし、離脱影響、前年度の高気水温影響の反動等を織込むことで、前年比-3.6%、67百万m³減の1,824百万m³を見込む。

業務用等ガス販売 20.3期第1四半期実績、20.3期見通し

20.3期1Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.2%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.6%	
設備稼働増減	-1.0%	
個別要因	-6.1%	他社へのスイッチング等
その他	+0.0%	
合計	-5.2%	



20.3期見通し

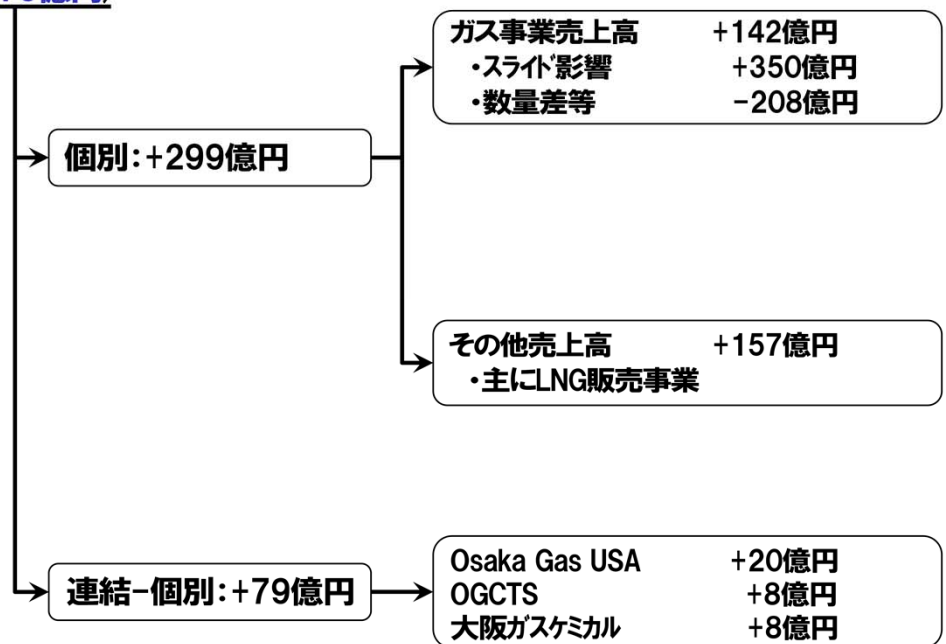
通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

- 離脱影響、特定のお客さま先での減少等を織り込むことで、前年比-4.6%、274百万m³減の5,736百万m³を見込む。

III. 參考資料

20.3期第1四半期の売上高差異(対前年)

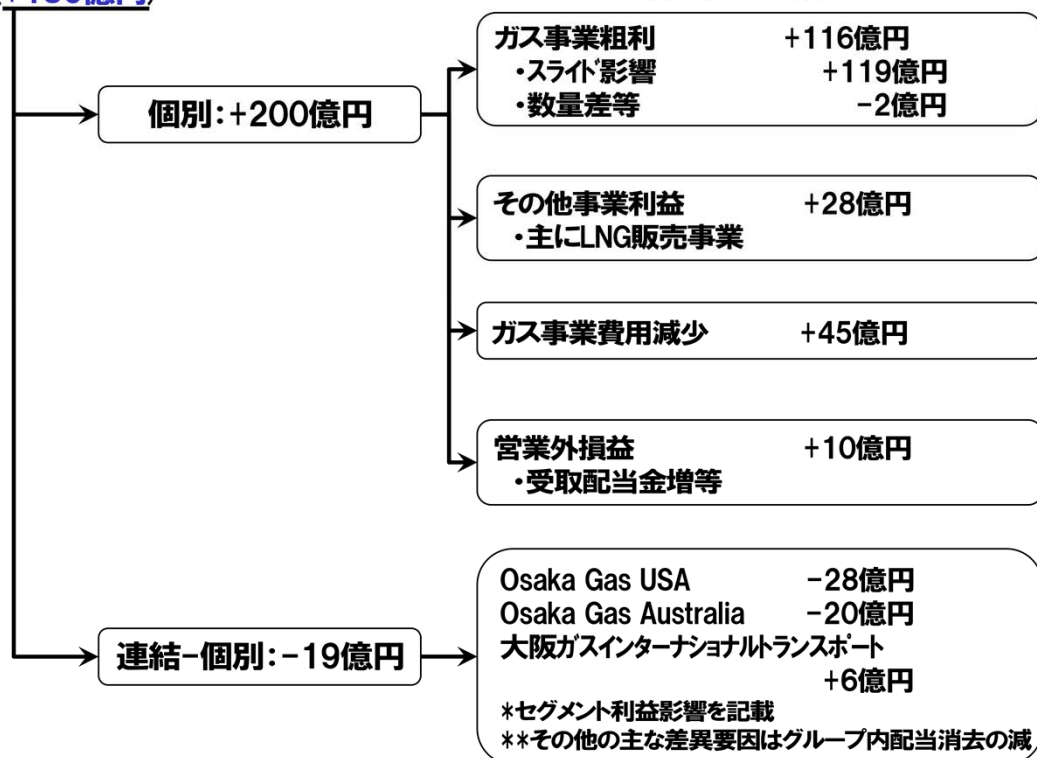
19.3期1Q → 20.3期1Q (差異)
 2,971億円 3,350億円 (+379億円)



20.3期第1四半期の経常利益差異(対前年)

19.3期1Q → 20.3期1Q (差異)
 233億円 414億円 (+180億円)

+-の符号は利益への影響を表す。

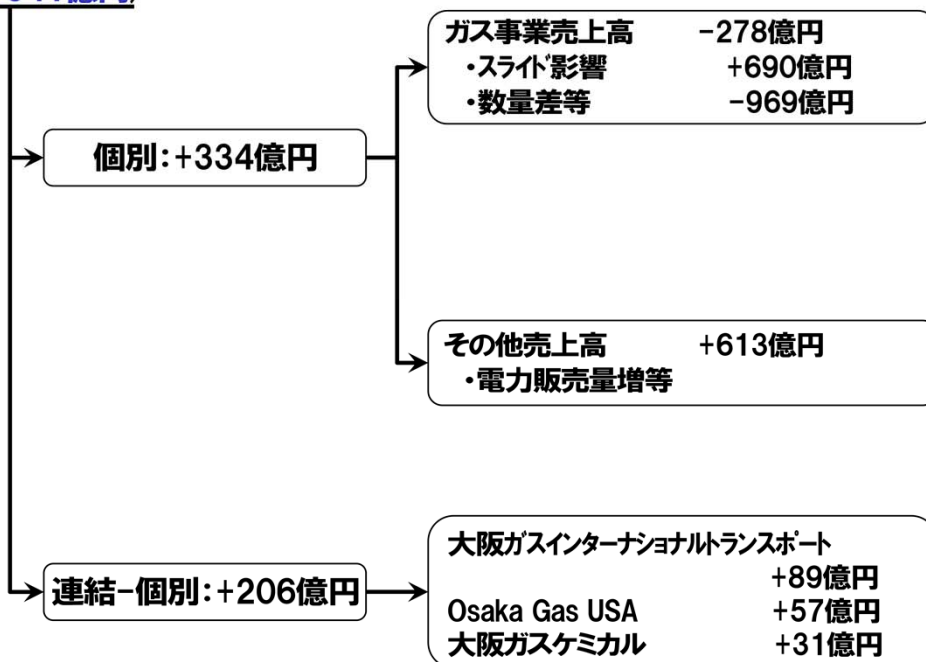


20.3期の売上高見通し差異(対前年)

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

19.3期 → 20.3期見通し (差異)

13,718億円 14,260億円 (+541億円)



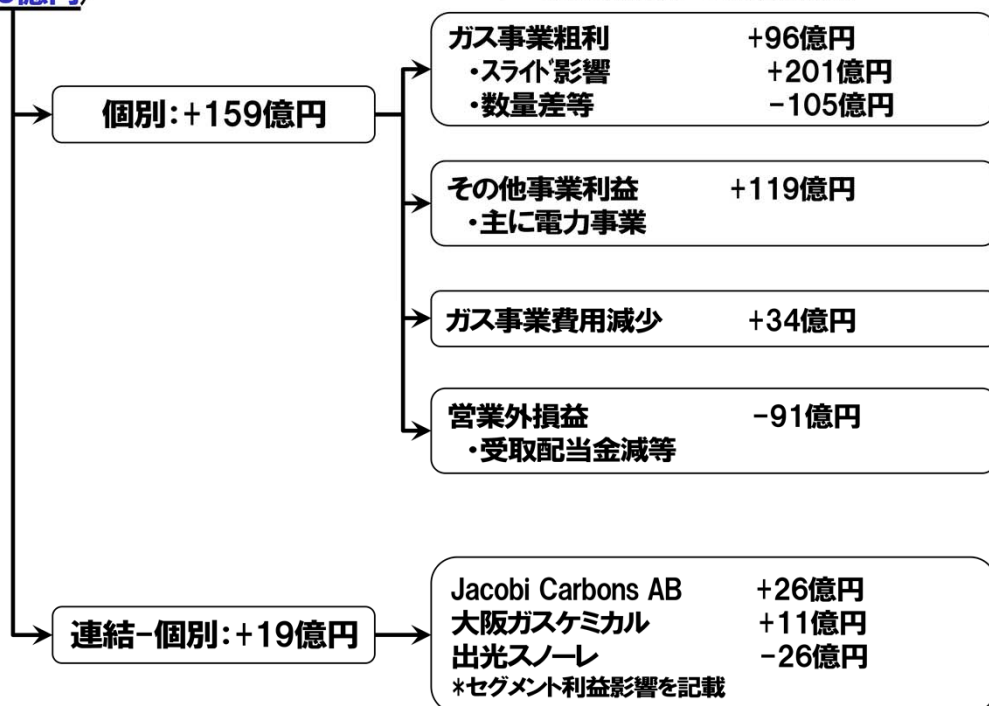
20.3期の経常利益見通し差異(対前年)

19.3期 → 20.3期見通し (差異)

631億円 810億円 (+178億円)

通期見通しは2019年4月発表時から変更ありません。

+-の符号は利益への影響を表す。



年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、20.3期の連結経常利益は約-8億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、20.3期の連結経常利益は-10億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、20.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。

以 上